

「患者目線の泌尿器漢方治療」

獨協医科大学越谷病院 泌尿器科
岡田 弘

漢方治療に熱心な先生がいる反面、全く漢方を用いたことがない先生方も多数おられるのが現状であります。特に泌尿器科は、漢方治療に取り組む医師が少ないと言われています。実際、東洋医学会の漢方専門医2148名(2012年末)のうち、泌尿器科医は僅か40名足らずと、5%未満に留まっているのが現状です。

この原因は、学生時代に漢方がカリキュラムに入っていた。漢方研究会のようなサークル活動をしていた。たまたま漢方の指導者に巡り会えた。このような人しか漢方を使ってはいけないという意識が支配的であるからと考えられます。

本講演においては、西洋医学の補完医療としての漢方という立場から、①西洋医が処方する ②エキス剤のみを用いる ③西洋医学で治しにくい病態を主たる治療対象にする ④効かない場合は順次処方を変更する という事を原則に、以下の病態をモデルにして、意識改革を試みたいと思います。

- i. 癌の緩和治療
- ii. 男性更年期障害
- iii. 男性不妊

少しでも、漢方好きの泌尿器科医が増加すれば幸いです。